

対話中心の授業のための教室

広島県福山市立常石ともに学園 | 普通教室を異年齢集団で対話を重視した教育を行うための空間に改修。



教室の前側に「サークル対話」のためのベンチを配置

普通教室で「サークル対話」がいつでもできるように、ベンチを壁側に面し半円形に配置している。このベンチは持ち運びが可能。

実現プロセス：

- ・再編により閉校した小学校1校を活用し、大規模改修した。
- ・目指す子どもの3つの姿を「自立・共生・自己実現」とする教育理念のもと、市全域から入学者を受け入れている。
- ・異年齢すべての教育活動を行い、年長者が年少者を助けたり教えたりということが日常的に行われており、教科等の学習では学年を超えた学びの展開が可能になる。

☞生活-01-01_過ごしたい場所を選べる 教室前の廊下にカウンターテーブル

☞学び-01-03_教室の「正面」は一つではない 壁や扉もホワイトボードに

ポイント：現代の学び

さまざまなICT機器の導入で学習の仕方も変わる。対話中心の授業は、従来の教室と異なる空間を必要とする。それらのための教室と場をどのように作るか？

目的に応じて形を変えることができる広い空間

京都府京都市立開建高等学校 | 開建高等学校では、生徒80人をひとつの学習単位とし、対話・協働に重点を置いた探究型の授業を実施している。普通教室4つ分の大空間を区切ることなく使用し、一つのテーマに対し少人数のグループで考えたことを発表し合う場になる。



L-pod (ラーニング・ポッド) のイメージ図



探究型授業の発表の様子

普通教室4つ分の大空間 (L-pod) を、目的や場面に応じて、可動式の机・椅子を動かし、ホワイトボードの可動間仕切りで部屋を区切ることができる。4つの教室に分けることも、一つの大空間として使用することも可能。

実現プロセス：

探究型の授業に重点を置いた学校へ

- ・新設校舎の計画段階で、教育委員会や教職員が未来の学校とは何かを積極的に検討した。
- ・1クラス80人に対して3～4名の担任がつき、対話・協働に重点を置いた探究型の授業を実施している。
- ・校舎内の生徒活動の全エリア及びグラウンドにてWi-Fiを利用することができ、タブレットを活用した授業等を展開している。

探究型の授業の様子

- ・探究型の授業において、一つのテーマに対して少人数のグループで考えたことを発表する場面では、机は使わず可動式の椅子を利用。グループごとの発表と、それに対してのクラスメイトの質問から、対話が生まれていく。
- ・壁側のホワイトボードで発表がスタートし、他のグループもそこからつなげるような形で板書をして発表をつなげていく。教室には様々な場所に多くのホワイトボードがあるため、複数の発表内容を記録しておくことができる。事前に準備した板書をきっかけとして、寸劇のような発表を実施するグループもあった。
- ・発表者の声は、小型スピーカーに接続されたワイヤレスマイク（ハンドマイク、ピンマイク）を使用するが、天井の吸音などの工夫もされており、部屋のどこにいても明瞭に聞くことができる。



教室の前面だけでなく、可動間仕切りもホワイトボードであり、発表に活用される

様々な創作活動の発表の場

ドルトン東京学園中等部・高等部 | 「学びの設計・探究・発表」のサイクルを実践するための教育環境として、発表の場を用意している。



講堂は、講演・演奏・演劇のいずれの公演にも対応できる舞台設備を備えている
(右上・右下: ドルトン東京学園公式Facebookより)



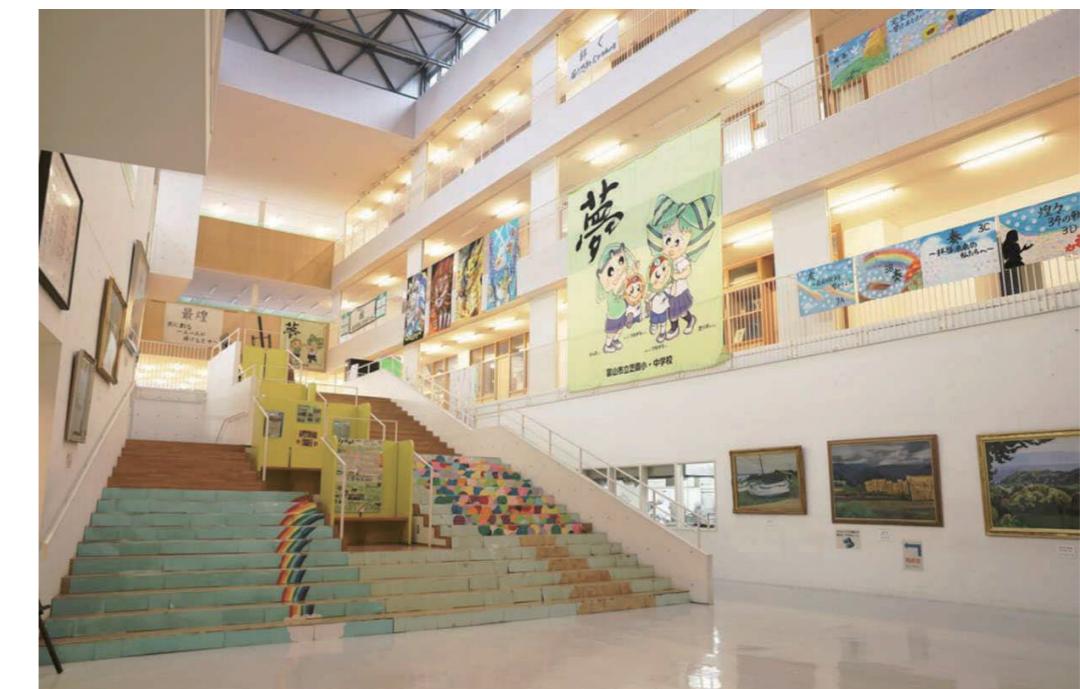
教室棟の中央には、発表の場ともなるラーニングコモンズ大階段がある
(右: ドルトン東京学園公式Facebookより)



富山県富山市立芝園小学校・芝園中学校 | 階段状の部屋や大階段は、発表の場としても使用される。



小学校: 合唱・集会・音楽の授業で使用される「表現の舞台」



中学校: 1階から2階へ上がる大階段は、昇降口から教室に行くまでに通る場所であり、ネットワーク利用が可能な無線LAN環境が整備されているため、発表の場にも使用される

特別教室の前のスペースに教科の関連物を展示

広島県福山市立想青学園 | 各教科の特別教室に近接して、メディアスペース（言語・人文社会・数学・理科・音楽・アート＆クラフト）を配置し、学校のあらゆる空間を学びの場としている。



メディアスペース（人文社会）

教室に隣接する場所に、黒電話などの昔の製品（生活道具、家具）を展示している。日常的に目に触ることで、人文社会に関する、児童生徒の興味関心を高める。

ポイント：発表・展示

発表や展示の役目は完成したものを披露するだけではない。発表・表現することは学習過程の一部であり、展示はそれを目にした人の好奇心や想像を刺激する。空間がそれをサポートする。

⇒共創-02-02_教職員との対話 教職員と研究者の対話を通じたワークスペースの改造

⇒共創-03-02_学校施設を地域住民が利用する ICT活用のセキュリティで地域利用促進

⇒環境-01-01_ZEBの校舎が教材に 校舎の取扱説明書となる運用マニュアル

⇒環境-01-02_木材活用の校舎が教材に 地場産業の木材を活かした校舎

ドルトン東京学園中等部・高等部 | STEAM棟3階のサイエンスラボでは、フロア中央のサイエンスセンターに教科に関する展示物があり、周りの各特別教室（化学、物理、生物）をつないでいる。



興味を引き出し、刺激を与えるサイエンスセンター（ドルトン東京学園公式ウェブサイトより）



特別教室の中心にサイエンスセンターがある

化学室における学び
(ドルトン東京学園公式Facebookより)

<コラム>感覚にやさしい社会をつくろう

神奈川県川崎市立新城小学校 | SDGs授業「感覚にやさしい社会をつくろう」は、音や光など「感じ方見える化」する体験を通して、誰もが過ごしやすくする工夫や協力することのよさを理解してもらうことなどを目的に行われた。

実現プロセス：

経緯

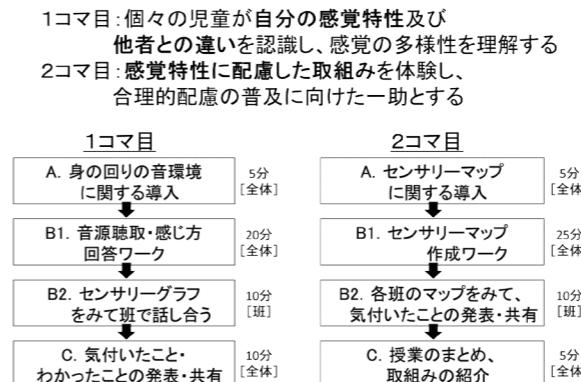
- 市内の大学において感覚特性の多様性の理解・啓発に向けた研究活動をしており、新城小学校が、SDGs教育として、多様性を認めていくことを大事にしたことから、区役所からの紹介で4年生の総合的な学習の時間の授業を行うことになった。
- 「感じ方の見える化」と、学校内の感覚要素を探査する活動を通して、個々の感覚特性や自他の感じ方の違いについて認識するとともに、感覚過敏・鈍麻といった非定型的な特性とそれによる日常の困り事がある人に対して、自分自身にできることを考え、配慮できるようにすることを目的とした。
- 本実践は、「かわさきSDGs大賞」で優秀賞を受賞し、感覚や心に関わるSDGsの普及に役立った。

授業の様子

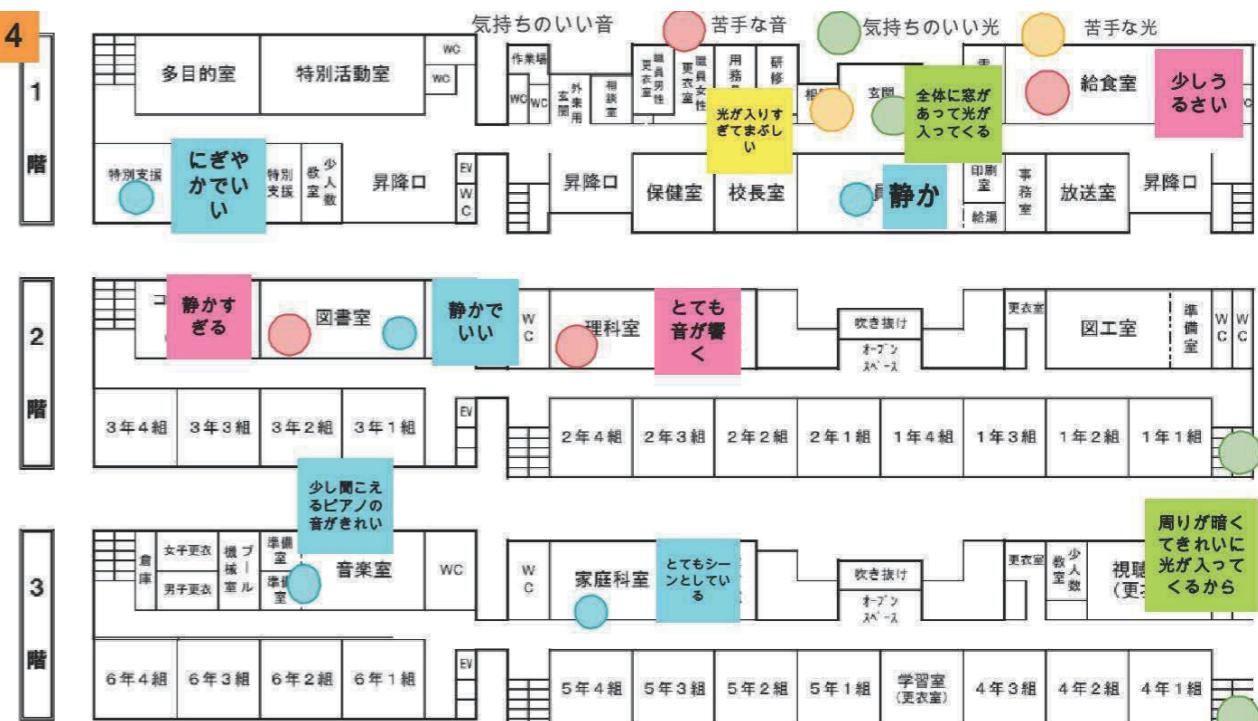
- たくさんの児童が日常を過ごす学校施設は、喧騒感の高い環境であるほか、様々な環境刺激が混在している。自閉スペクトラム症（ASD）など発達障害のある児童については、視覚・聴覚等の様々な感覚特性が非定型であることが多く、日常的な環境においても感覚特性上の困り事を抱えるケースが少なくない。
- この授業においては、感じ方の違いについて考え、様々な感覚特性に対する合理的配慮への理解を深め、「心のバリアフリー」の普及を目的として、2時限連続（45分間×2コマ）で構成した。
- 1コマ目：「センサリーグラフ」^{※1}による感じ方の見える化を通じて、自分自身の音の感じ方の特性及び自他の感じ方の違いを体感的に理解した。
- 2コマ目：学校内の感覚要素を探査する活動を通じて、学校内を感覚要素の面から見直し、学校環境への新しい視点を得るとともに、「センサリーマップ」^{※2}をはじめとした見えにくい障害に対する合理的配慮について学んだ。児童自らができる配慮について考えた。
- 児童たちは班に分かれて学校内を回り、端末を用いて、地図上に「音がうるさい」「光がまぶしい、暗い」などの情報や感じ方を記入していった。

※1 センサリーグラフ：端末を使い身近な環境音源に対する「気になり具合」と「印象」の回答結果をまとめたグラフ。感じ方見える化することで、音に対する自他の感じ方の違いや多様性を認めることが可能。

※2 センサリーマップ：感覚に影響を与える要素を地図上に示すことで、その場所の状況を把握しやすくするマップ。美術館や博物館で用いられる事例があり、感覚過敏や、未知の空間が苦手という特性のある発達障害者などが事前に施設内の状況を理解して、心身の準備をすることに役立つ。この授業では、センサリーマップを学校内の環境の可視化に応用した。



学校内の音・光を探す様子



授業に参加した児童の声

- 「センサリーマップを作ってみて感じる事は人それぞれなんだなって事がわかりました。」
「光がまぶしい時とかはカーテンを閉めたり、うるさかったら静かにしてあげたりするとか感じ方も違うのでその感じ方を尊重していけたらいいなと思いました。」

[☞感覚特性の多様性の理解を促す学習授業パッケージ（※外部のウェブサイトにリンク）](#)



図書室を中心に学校施設全体を計画

福島県大熊町立学び舎ゆめの森 | わくわく本の広場を中心に、様々な学びの場を配置している。



中心の円の部分が「わくわく本の広場」



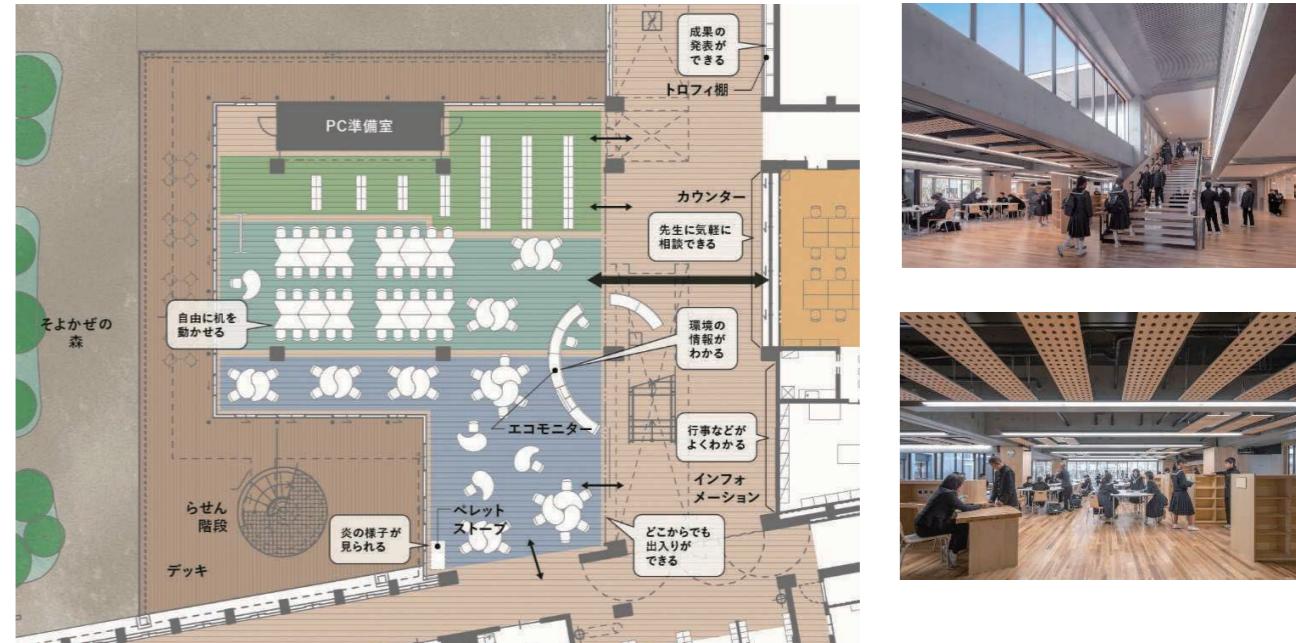
わくわく本の広場を囲むように、それぞれが選んだ場所で学習活動を進めている



本棚の下が児童生徒の学習の場となる

⇒生活-01-01 過ごしたい場所を選べる 図書室を中心に、様々な過ごし方ができる場所がある

岐阜県瑞浪市立瑞浪北中学校 | 生徒たちの日常動線である昇降口から入ってすぐの場所に図書室（ラーニングコモンズ）がある。放課後にスクールバスを待つ際の場所として使用する生徒も多い。



書架だけでなく、可動式の机・椅子もあるため、生徒が様々な場面で利用する

北海道安平町立早来学園 | 図書室は、日常的に児童生徒と地域住民が交わる場所になる。

児童生徒と地域住民が共有する場所として図書室を整備している。学校教育活動の時間帯であっても地域住民が、本の貸し借りだけでなく勉強や仕事の場所としても図書室を利用することが可能であり、学校全体の活気や地域との交流への興味が高まっている。



⇒共創-03-02 学校施設を地域住民が利用する ICT活用のセキュリティで地域利用促進

校舎の中心部にあるラーニングセンター

千葉県柏市立田中北小学校 | 子どもたちの日常動線となる中央階段、2階昇降口に面した位置に図書室（ラーニングセンター）を配置し、身近に本に触れることのできる環境。書架・閲覧コーナーは間仕切りを設けず、一体的な利用が可能。



ラーニングセンターのイメージ図（柏市公表資料より）



書架・閲覧コーナーは吹き抜けになっている

様々な座席がある



思い思いの場所で読書を楽しむ



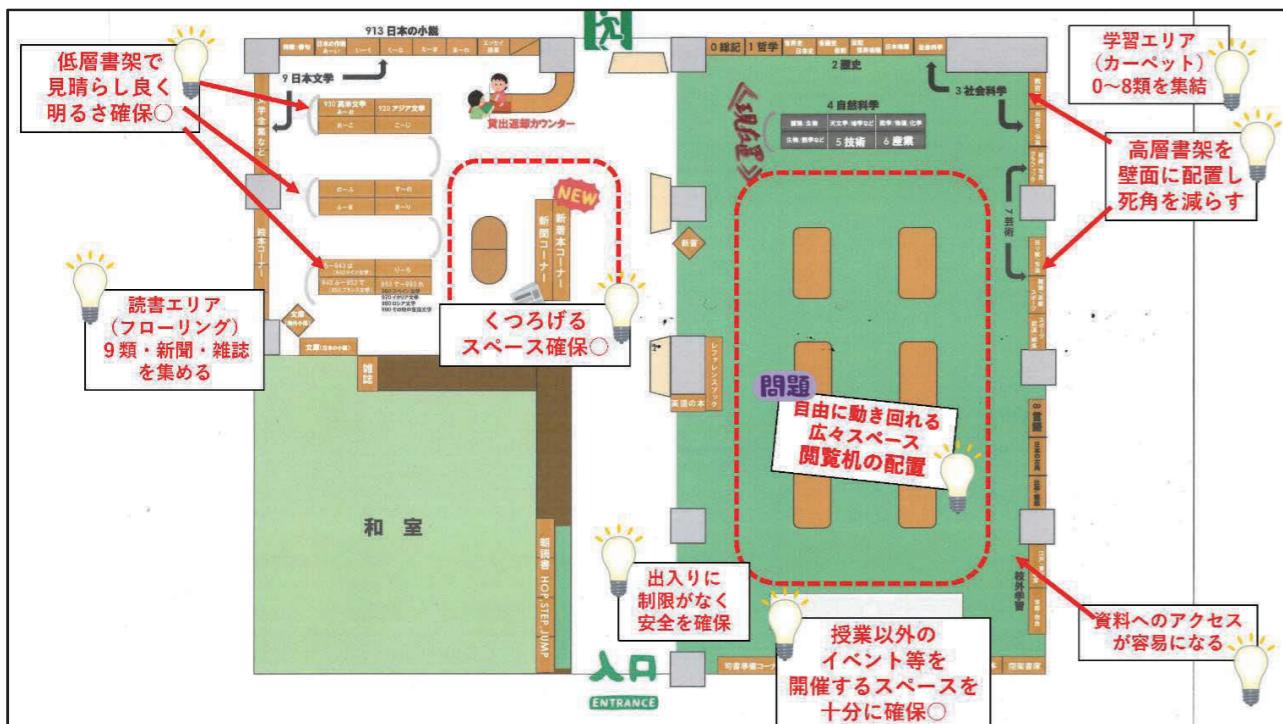
ラーニングセンターで授業を実施する様子

ポイント：図書室

図書室・メディアセンターは学習活動の結節点である。学校の中心に本を置き、児童生徒が学び、過ごし、自己を深める場所にする試みが広がっている。

学校図書館を柔軟な学びの場へ

東京都杉並区立井荻中学校 | 図書館が従来抱えていた問題点の改善を図るとともに、1人1台端末が行き渡っている状況下で、学びの構造転換のアイディアを妨げない「柔軟な学びの場」とすることを目指すリニューアルを実施した。学習を想定したエリアは、広々とした閲覧机のスペースを確保し、生徒が館内メディアを自由に活用すること、協働的な学びに取り組めることを目指した。読書を想定したエリアは、低層書架を効果的に配置して適度な明るさと見晴らしの良さを確保した。



学校図書館内に、居心地よい読書空間と柔軟な学びの場それぞれのゾーンをつくりている



低層書架で見晴らし良く明るさ確保



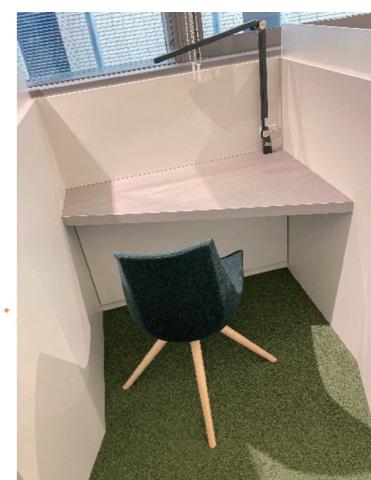
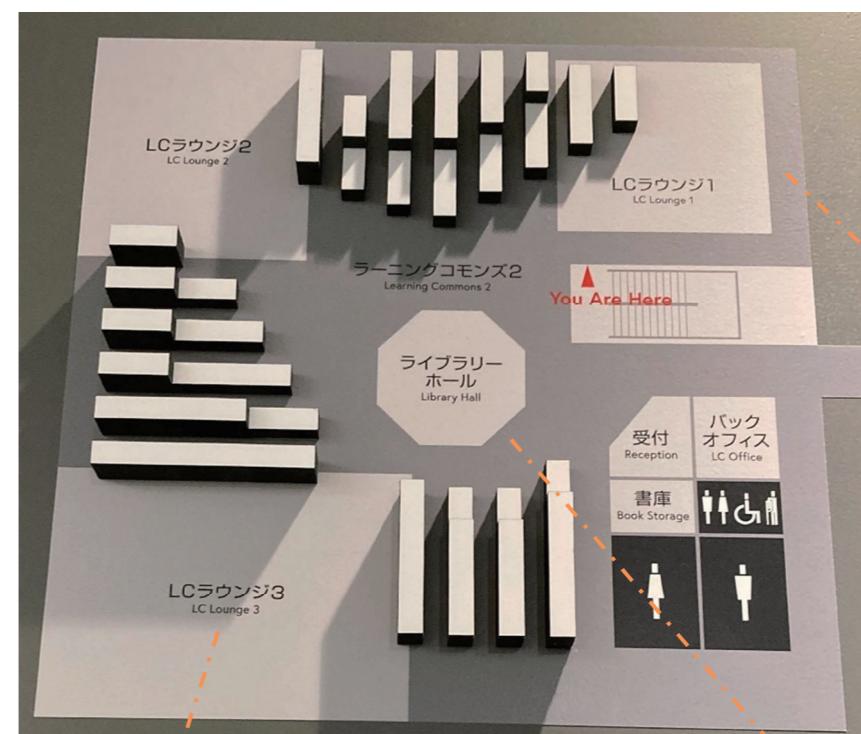
閲覧机は授業やイベントでも活用される

共創-02-02_教職員との対話 学校司書がハブになった学校図書館リニューアル

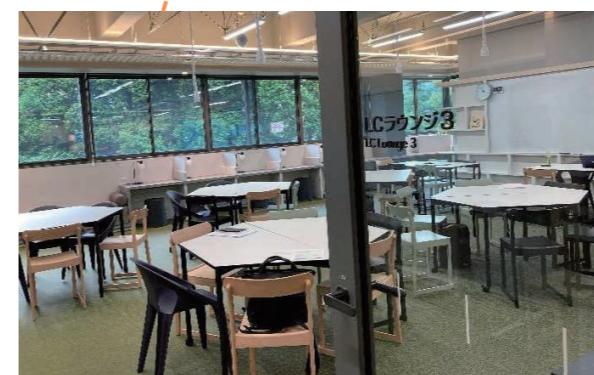
ドルトン東京学園中等部・高等部 | 生徒がニーズに合わせた環境を選択することができ、学習効率を最大限にすることができる空間。

場所の説明：

- STEAM棟2階の中心のライブラリーホールは、展示やプレゼンテーションの場として機能しており、放課後は生徒が自然と集う場所にもなっている。
- ラウンジには、ホワイトボードや電子黒板が配置されており、協働的な学習の場として授業等で利用されている。
- 書架エリアでは、備え付けのiPadで蔵書検索のみならず電子図書館の閲覧も可能。閲覧席は、複数人数で使えるコミュニケーション型閲覧シートや、間仕切りでプライバシーを確保した熟考スペースなど、ニーズに合わせて座席を選べるようになっている。



一人で集中して学習できる場



グループワークのためのラウンジ



気軽な学びの場としての芝生のライブラリーホール
(ドルトン東京学園公式Facebookより)

屋外デッキに面した図書室は、子どもたちの居場所

千葉県柏市立土小学校 | 既存施設の長寿命化改修に当たり、図書室と一体的に利用できるデッキを設けた。

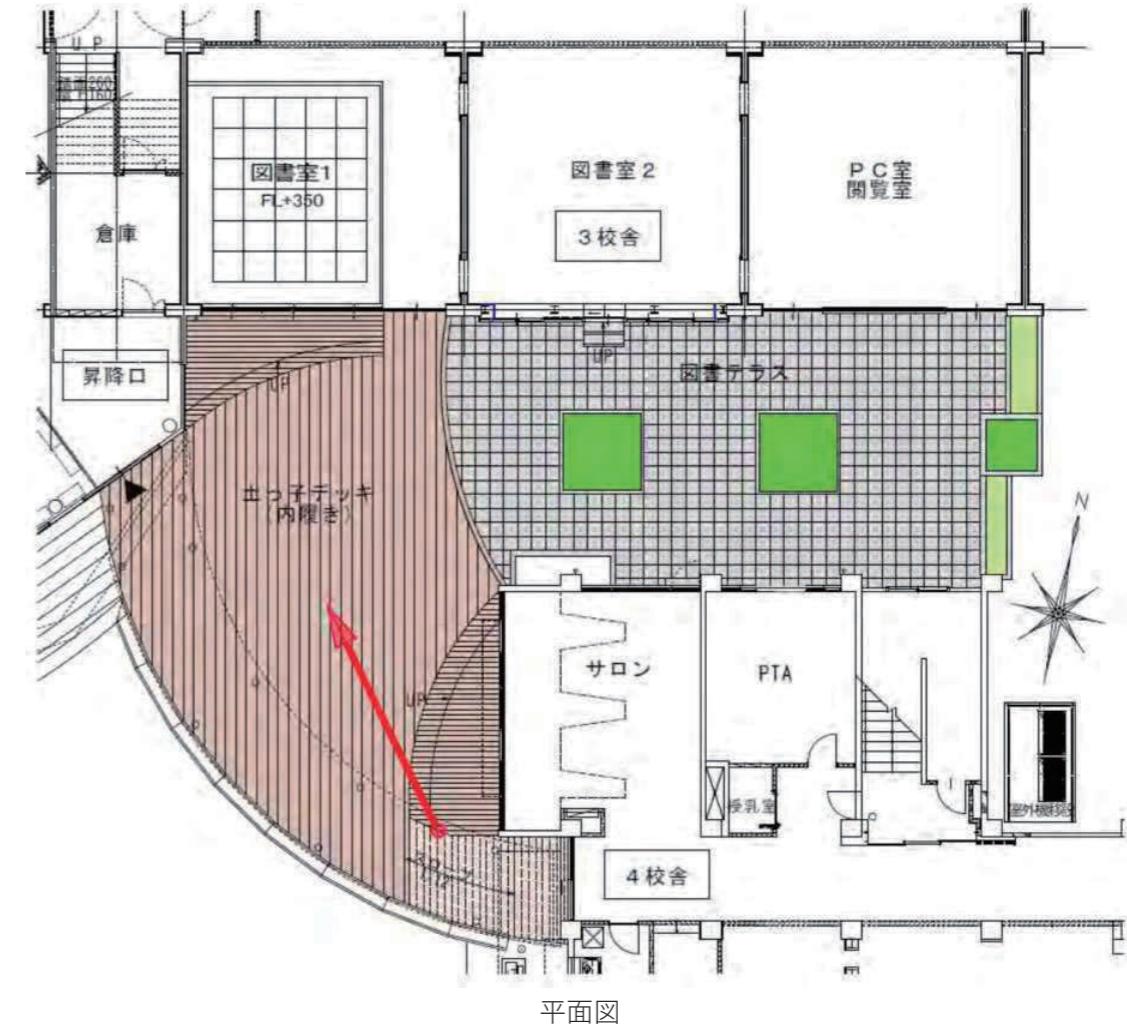
- 子どもたちの好きな場所であり、学校の魅力の一つでもある図書室にメディア機能を付加することにより、調べ学習が容易に行える環境を整えた。また、子どもたちや地域の方が利用しやすいよう、図書室の近くに昇降口や地域交流エリアを配置するなど工夫した。
- 図書室の外にデッキを設けることで、読書テラスとして児童が自由に使用している。



図書室と特別教室棟をつなぐデッキ（屋外活動・地域との交流・読書用テラスなど多目的に活用）



思い思いの場所で、読書を楽しむ



平面図



畳スペース



3教室分のスペースを持つ図書室

共創-03-01 コミュニティ・スクールの拠点になる場 大規模改修時に地域開放エリアを再編